



Dai 1 NAIKA News

平成 27 年 7 月 21 日

三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報誌【第 16 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋 2-174

TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

ごあいさつ



伊藤 正明

先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、患者様のご紹介や大学で診療させていただきました患者様のフォローなど、大学病院との病診・病病連携に多大なるご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

さて、三重大学病院の新外来棟を、5月7日に無事オープンさせて頂くことができました。

2月27日の完成記念式典、4月19日の内覧会会には、多数の先生方のご出席を賜りまして誠にありがとうございました。新外来棟がオープンして約1か月を経過していますが、受付、検査、診察から会計まで、混乱もなく、旧外来棟に比べて、よりスムーズに患者様が受診頂いているかと思っております。

新外来棟のオープンに際しまして、外来受診に関し変更した点がございます。一つは、予約センターを新設し、先生方よりご紹介をいただく際には、従来の医療福祉支援センターに代え、本予約センターに予約を頂くことになりました。また、医師の外来枠は、初診、再来とも原則として予約制をとりましたため、新患者様の受診に際しては、あらかじめ予約を取って頂くと、よりスムーズに診察を進めさせて頂けます。内科では、ほぼ毎日すべての診療科が初診診療を行い、午後の診察も一部行っ

ていますので、先生方におかれましては、予約センターに FAX でご紹介いただき、新患者様の受診の日時の予約を取って頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、詳しい手順につきましては、三重大学病院 HP のトップページの右上の“医療関係者の方へ”の欄 (<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/medical/reserve/>) をクリックして、ご覧いただければ幸いです。

第一内科が関連しております、循環器内科、腎臓内科、総合内科、消化器・肝臓内科の外来担当医師も少し変更がございまして、この点に関しましても、本第一内科ニュースおよび HP でご確認くださいければ幸いです。新外来棟稼働し、今後より多くの初診の患者様をご紹介頂き、診断・治療方針がある程度決まりました患者様の診療は、先生方の病院、クリニックでお願いする病診連携を今後さらに進めて、特定機能病院としての診療を行っていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

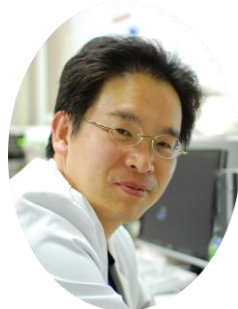


慢性腎臓病 (CKD) 患者さんをご紹介ください

慢性腎臓病 (CKD) は 2005 年より日本でも普及活動がはじまり、はや 10 年が経過しました。最近では医師の認知度は 98% 程度、三重大学部 2 年生も約半数が知っていることと答え、CKD の考え方はようやく市民権を得た感があります。CKD の診療目標は、透析が必要な末期腎不全 (ESRD) への悪化を防ぐことと、

心臓血管病 (CVD) の予防です。ESRD と CVD のリスクは、血清クレアチニン値から算出される推算糸球体濾過量 (eGFR) および蛋白尿によって評価することが可能です。

CKD 患者さんを診察する際には、クレアチニン採血と検尿検査が重要です。主に診療所勤務の内科医を対象としたアンケートでは、CKD 患者さんの初診時に必ず検尿



腎臓内科
石川英二

するのは 41%、3 ヶ月に 1 回以上クレアチニン採血を行うのは 79% と報告されています。

CKD と診断し、ESRD や CVD のリスクの高い患者さんは腎臓専門医への紹介が推奨されています。CKD 診療ガイドでは①高度蛋白尿、②蛋白尿・血尿ともに陽性、③eGFR 50ml/min/1.73m² 未満を紹介基準として挙げています。実際に腎臓専門医への紹介のタイミングは eGFR 30 程度が多いと報告されています。60 歳男性では eGFR 50 はクレアチニン 1.2mg/dl、eGFR 30 はクレアチニン 2.0mg/dl 程度です。腎臓専門医とかかりつけ医の間で紹介基準に差があることが伺えます。

専門医とかかりつけ医双方の顔の見える化は、患者紹介において最も重要な要素の 1 つです。第一内科の先生方には、ぜひ我々同門で顔の見える腎臓内科医へお気軽に患者さんをご紹介いただき、大学病院を CKD 診療の一部としてご利用いただければと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ワンポイントレクチャー

B型肝炎の再活性化を起こさないために



消化器内科
稲垣 悠二

近年、分子標的薬、生物学的製剤など免疫抑制・化学療法に用いられる薬物の進歩によって、悪性腫瘍、自己免疫性疾患の治療効果は向上してきましたが、これらの治療が原因で生じるHBV再活性化が世界的に問題となってきています。

HBVの再活性化という言葉をご存知でしょうか？HBV再活性化とはHBV感染者において免疫抑制・化学

療法によりHBVが再増殖することを示します。HBsAg陽性の非活動性キャリアだけでなく、HBsAg陰性でHBsAbかつ/またはHBcAb陽性の既往感染者（既往感染者の再活性化に起因する肝障害をde novo B型肝炎と呼びます）においても生じてくる病態です。HBV再活性化による肝炎は重症化しやすいだけでなく、肝炎の発症により原疾患の治療を困難にさせるため、発症そのものを阻止することが最も重要であります。

HBV再活性化のリスクは、主にウイルスの感染状態と免疫抑制の程度に規定されます。ウイルスの感染状態はウイルスマーカー、HBV DNAにより評価します。HBV DNAを検出する場合は、核酸アナログの予防投薬が必要となります。HBV再活性化が起こる可能性のある治療には、「臓器移植」、「骨髄移植・造血幹細胞移植」、「免疫抑制薬による治療」、「抗癌剤による化学療法」、「抗リウマチ薬による治療」などがあります。特に、悪性リンパ腫に対するリツキシマブとステロイド

の併用療法や骨髄移植・造血幹細胞移植などはHBV再活性化の高リスクの治療であり十分注意をする必要があります。

「厚生労働省研究班による免疫抑制・化学療法に伴うB型肝炎対策ガイドライン」が2009年に発表されております。2010年以降の急性肝不全症例の全国調査によりde novo B型肝炎の実態が報告され、de novo B型劇症肝炎例では、いずれもガイドラインを遵守していなかったことが明らかとなっております。

免疫抑制・化学療法をする際には、最新の改訂版である2014年度版の上記ガイドラインを見て頂き、治療を検討していただければ幸いです。

新任医師紹介



循環器内科
佐藤 圭

平成19年卒の佐藤圭です。2015年4月に研修医以来7年ぶりに大学病院勤務となりました。これまで三重県内の関連病院の他に関西労災病院や榊原記念病院で冠動脈インターベンションの他に末梢血管インター

ベンションやStructure Heart Diseaseについての研修を行ってきました。大学病院では、大動脈弁狭窄症に対するインターベンションや虚血性潰瘍を伴った閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤診療を自分の特色として診療を行いたいと思います。

患者さんの健康維持・増進に寄与できるよう努めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

～おしらせ～

● 第一内科外来担当がリニューアルされました。(7月～)

		月	火	水	木	金
総合	初診	山田 岡本 山本	藤本(直) 村田 松田	岡本 石川	田辺 杉本(和)	土肥
	初診	山田 栗田 増田 森脇	藤井 藤本 松田 佐藤圭	岡本 後藤 杉浦(美)	田辺 藤田 熊谷 武内	土肥 中森 荻原 大森
循環器	再診	伊藤,岡本 藤本(直),増田 栗田,土肥 PM 外来 香川	土肥 中森 杉浦(美)	岡本 荻原 後藤	田辺 藤田 谷村 松田	山田 藤井 熊谷
	初診	鈴木	村田	石川	藤本(美)	伊藤(貴)
腎臓	再診	石川	村田 伊藤(貴)	石川 藤本(美)	藤本(美)	村田 伊藤(貴)
	初診	山本			白木 杉本(和)	
消化器・肝臓	再診	白木 杉本(和) 山本,小倉		山本	白木 杉本(和)	

注) 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で御紹介いただく場合は、可能な限り火、木曜日の外来(担当: 藤田、藤井)に御紹介をよろしくお願い申し上げます。
PM 外来=ペースメーカー外来(1,2,3週のみ)

● 第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/>

三重大学病院循環器内科、腎臓内科 ～患者様をご紹介ください～

1. FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を御記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15分以内に折り返しFAXで診療予約の回答をさせていただきます。

2. 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)
内科外来: 059-231-5146 病棟: 059-231-5101
FAX: 059-231-5518 研究棟: 059-231-5015
患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科HPまで。
naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp

